

フランス現代劇

私は太田、広島の川

朝は、夜の闇に包まれた”

“Moi, Ota, rivière d'Hiroshima”
[Le matin où la nuit est tombée]

最新作
世界初演

作 ジャン・ポール アレーグル
Jean-Paul Alègre
翻訳・演出 岡田正子

アレーグルの限りない優しさ、烈しい怒り、細緻。
我々に、そして世界の人々に呼びかける。
"この焰を必ず消そう!"

太田川は大自然の象徴、人々の心のよりどころ。
姉と弟は広島と東京に住み、質素でシンプルな市民の営みがある。
USAはマンハッタン計画に突入。
歴史にも類を見ない市民を標的にした人体実験の日が迫りくる。
ついにエノラ・ゲイ機が飛び立つ。
史実に基づくUSAの真実をアレーグルは明白に描いている。
太田川の相生橋が標的に。太田川は爆死するが、
再び生き返り力を振り絞って呼びかける。
我々に。そして世界の人々に。

CAST



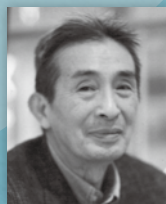
白川万紗子



末次一恵



榎 太誠



西本裕行



落合弘治



鷲巣照織



坂本岳大



原 昂史



高橋信康



東山凜子

公演期間

2015年4月23日(木) → 26日(日)



開場
開演の 30 分前

受付開始
開演の 45 分前

劇場

東京/両国 シアターXカイ



東京都墨田区両国 2-10-14/Tel.03-5624-1181

最新作
世界初演

フランス現代劇

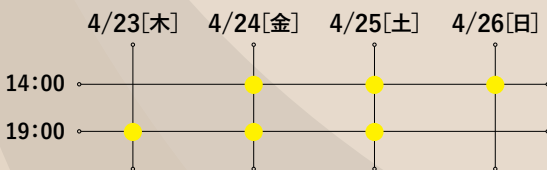
私は太田、広島川の 朝は、夜の闇に包まれた

“Moi, Ota, rivière d'Hiroshima”
[Le matin où la nuit est tombée]

作 ジャン・ポール アレーグル
Jean-Paul Alègre
翻訳・演出 岡田正子

アレーグルはこれまでも世界中で起きている
社会的ひずみを描いてきた。いわゆる社会劇的にはせず、
ヒューマンで詩情のある作品に書き上げている。

2015年4月23日(木) → 26日(日)



[開場] 開演の30分前 (受付開始: 開演の45分前)



ジャン・ポール アレーグル (作家)

1951年生まれ。現代劇作家の中で最も注目されている一人である。作品は、英語、ドイツ語、スペイン語など20ヵ国語に訳され、35ヵ国にも及ぶ国々で上演されている。また、フランスで最も上演回数が多い作家の一人である。2004年『アニェス・ベラドンヌ』でアカデミーフランセーズ(エミール・オージェ賞)受賞。『行き交い』では、2003年リヨン市フェスティバル劇作家賞受賞。2007年にはフランス政府より文化勲章(シュバリエ)が贈られた。2011年1月までフランス劇作家協会会長を務めたのち、SACD(劇作家並びに劇作曲家協会)の演劇部門ディレクターに選出される。〈テアトルデュフィルアリアンヌ〉を1970年に設立。以後、現代に至るまで精力的に数多くの優れた作品を生み出し、訳・脚色も手掛けている。妻のアニーク・キューニは元女優で、アレーグルによると大事な助言者であるとのこと。

2012年4月24日、広島県の平和記念館を訪れ、広島知事・湯崎氏と感動的の出会いがあった。「日仏文化協会ポー・レザン」の記念祝賀会が広島美術館で開かれており、アレーグルも主催者側の一人として参加していたため、そういった一連の流れを経て、この戯曲は生まれた。

STORY

この劇は32景から成り、長い間すべてを見つめてきた太田川が芯となって進められていく。広島では穏やかで安らかな日々が流れている。一方アメリカではピエール・キュリーの呼びかけも空しく、〈マンハッタン計画〉が科学者や推進派らの手によって綿密にスピーディに進められている。そして、ついにエノラ・ゲイ機は飛び立つ。1945年8月、広島はいつもと同じ眩しい朝、突如一万メートルの高さから原爆が投下された。太田川は被害者や死者のことを伝え、我々に訴え続ける。人間の尊厳を! 平和の尊さを! 大自然の美しさを! 皆で守って! と。

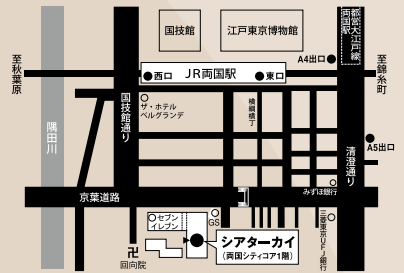
劇場

東京/両国
シアターXカイ



東京都墨田区両国 2-10-14
Tel.03-5624-1181

- JR 総武線両国駅西口下車、左へ約3分
- 都営地下鉄大江戸線両国駅 A4・A5 出口約8分



チケット (日時指定・全席自由)

前売: 3,500円 / 当日: 3,800円
学生: 2,500円 (公演当日学生証提示)

チケットご予約・ご購入

- ◆インターネット (パソコン・携帯)
<http://urx.nu/eIR6>
- ◆電話予約 (カンフェティチケットセンター)
0120-240-540 (平日 10:00 ~ 18:00)



岡田正子 (翻訳・演出家)

1929年東京生まれ。小林正、鈴木力衛にフランス語を学ぶ。文化学院卒。1952年に渡仏、パリで日本人として初めてベラ・レーヌ女史に師事。ベラ・レーヌ・システム(演技の基礎訓練)を教えることを許される。1964年帰国後、現在に至るまでその普及に努める。1969年から83年までニコラ・バタイユの日本での演劇活動を訳者、演出助手の立場で支え、24作品に参加。『テリエ館』は1975年度の、『ボンソワール・オッフェンバック』は1976年度の芸術祭優秀賞を参加者全員が受賞している。1983年より、日本に知られていないフランスの優れた

作品を翻訳・演出し、初演を続ける。アレーグルとは『急流の男』『人生の始まりは劇場から』(02年初演)で出会う。その後、数々のアレーグル作品の日仏同時初演、日本初演の翻訳・演出を手掛ける。2011年4月には『天国への二枚の切符』の世界初演を果たし、翌2012年再演、好評を博す。1996年フランス政府より芸術文化勲章(シュバリエ)を贈られる。また2011年、長年に渡るフランスの作家紹介・擁護に対して、フランスのSACD(劇作家並びに劇作曲家協会)から最高の荣誉である「ポーマルシェ賞」(メダル)を、日本人として初めて贈られる。

STAFF

美術: 血田圭作 音楽: 北川道夫 音響: 富田健治
照明: 朝日一真 衣装: 井上よしみ 舞台監督: 川前英典
演出助手: 坂本岳大・高橋信康
舞台写真: 中川忠満
制作協力: 貝山幸子・東山凜子・小倉美香
チラシ制作: シーアイエー株式会社
著作権管理: 株式会社 フランス著作権事務所

◆Eメール
frenchdrama@uv.main.jp
◆フランス演劇クレアション ホームページ
<http://frenchdramacreation.com>
*公演期間中のお問合せ: シアターX Tel.03-5624-1181
助成: 笹川日仏財団 協賛: 鹿島建設株式会社
協力: 劇団昴 テアトル・エコー 賢プロダクション 劇団ひまわり
制作・主催: フランス演劇クレアション